

第 39 回総合科学技術会議議事録（案）

1. 日時 平成 16 年 9 月 9 日（木） 16 時 30 分～17 時 26 分
2. 場所 総理官邸 4 階大会議室
3. 出席者

議長	小泉 純一郎	内閣総理大臣
議員	細田 博之	内閣官房長官
同	茂木 敏充	科学技術政策担当大臣
同	麻生 太郎	総務大臣
同	谷垣 禎一	財務大臣
同	河村 建夫	文部科学大臣
同	中川 昭一	経済産業大臣(代理 坂本 剛二 経済産業副大臣)
同	阿部 博之	
同	大山 昌伸	
同	薬師寺泰蔵	
同	岸本 忠三	
同	松本 和子	
同	吉野 浩行	
同	黒川 清	

(臨時)

議員	亀井 善之	農林水産大臣
同	井上 喜一	防災担当大臣
4. 議事
 - (1) 我が国における宇宙開発利用の基本戦略
 - (2) 平成 17 年度科学技術関係予算改革の取組みについて
(配付資料)資料 1-1 我が国における宇宙開発利用の基本戦略
資料 1-2 我が国における宇宙開発利用の基本戦略（案）
資料 2-1 平成 17 年度科学技術関係予算改革の取組状況について
資料 2-2 科学技術連携施策群の創設・推進について（案）
資料 2-3 科学技術連携施策群のテーマについて（イメージ）
資料 2-4 競争的研究資金の平成 17 年度概算要求の状況

資料 2-5 競争的研究資金の制度改革と資金拡充の取組状況について

資料 3 第 38 回総合科学技術会議議事録(案)

5 . 議事概要

【茂木議員】

総理は 10 分ぐらい遅れられるということではありますが、ただいまから第 39 回の「総合科学技術会議」を開会いたします。

今回、臨時議員として農林水産大臣、そして防災担当大臣の参加をいただいております。

本日の議題は 2 つございます。お手元の資料にありますとおり、議題の 1 として「我が国における宇宙開発利用の基本戦略」、議題の 2 として、前回は御議論いただきました、「科学技術関係予算の改革について」、この 2 点を予定いたしております。

(1) 我が国における宇宙開発利用の基本戦略

【茂木議員】

それでは、早速議題 1 の「我が国における宇宙開発利用の基本戦略」に入りたいと思います。

我が国の宇宙開発においては、H - IIA ロケットの打ち上げ失敗などにより、計画の推進に支障をきたしている一方で、アメリカや中国は、宇宙開発を積極的に進めていく方向であります。

これらの国内外の状況を踏まえ、宇宙開発利用専門調査会におきまして、平成 14 年 6 月に決定した、「今後の宇宙開発利用に関する取り組みの基本」を改めて精査することにより、我が国における宇宙開発利用の基本戦略の見直しを行いました。

この点につきまして、大山議員から御説明をお願いいたします。

【大山議員】

それでは、御説明申し上げます。

我が国における宇宙開発利用の基本戦略をお手元の資料 1 - 2 のとおりまとめました。概要を資料 1 - 1 で説明申し上げます。

今、大臣から御発言がありましたように、我が国の宇宙開発利用に関する研究開発は、現在、平成 14 年 6 月の総合科学技術会議で決定をいたしました、「今後の宇宙開発利用に関する取り組みの基本」に基づいて進められますが、国内外において、大変大きな状況の変化が起きています。

国内では、昨年 11 月の H - II A 6 号機打ち上げの失敗。それから、10 月には環境観測技術衛星（みどり II）の異常。

一方、海外では、米国の新宇宙探査ビジョン、これが今年の 1 月に発表されてますし、昨年の 10 月には中国における有人宇宙飛行の成功等々がありまして、内外で明暗を分ける結果になっています。

そこで、昨年の 10 月以来、計 16 回にわたり、宇宙開発利用専門調査会を開催いたしまして、現行の「取組み基本」の精査と、より踏み込んだ議論をお願いし、今後 10 年程度を見通した基本戦略を作成いたしました。

この基本戦略の要点を本資料の下段で説明させていただきます。特に重要な点を朱書してございます。

まず、左上の「宇宙開発利用の意義・方針」であります。今回初めて意義を明記いたしました。

意義は、国家戦略技術としての重要性、我が国の総合的な安全保障への貢献、それから地球人類の持続的発展への貢献及び国際社会における我が国の地位向上に貢献といたしました。

また、我が国が必要なときに独自の宇宙空間に打ち上げる能力を将来にわたって維持することを基本方針といたしまして、当面は信頼性の確保を最重視して、基盤的技術を強化するといたしました。

左下段にあります「横断的推進戦略」では、2 点が要になると思います。

1 つは「基幹技術と重点化戦略」であります。国の持続的発展の基盤となる重要な科学技術のうち、宇宙開発利用を俯瞰し、ロケット技術などさまざまな要素技術を統合した宇宙輸送システム技術等を、基幹技術と定義し、基幹技術を最重点分野として推進することにいたしました。この基幹技術につきましては、本文の 19 ページ以下に記載してございます。

2 つ目は「安全保障・危機管理の分野における取組み」についてであります。ここでは、宇宙を安全保障・危機管理の分野で平和的に利用することは、我が国の総合的な安全保障に大きく貢献すると明記いたしました。

また、国会での決議・議論等を踏まえ、国内外における政治・経済・社会情勢の変化と国際法上の宇宙の平和利用原則を踏まえた各国の宇宙の平和利用の状況を念頭に置きつつ、我が国としての平和利用の在り方について議論することが必要であるといたしました。

それから、右の「分野別推進戦略」。ここでは、3 点が要になると思います。

1つは「衛星系の推進戦略」で、情報収集衛星、安全の確保に必要な情報収集・解析技術の高度化に関しては、着実に研究・開発・運用を推進することといたしました。また、衛星測位システムの在り方については、当面の目標として、国はリスクの高い測位補完・補強等に係わる研究・開発・実証を着実に推進することとして、整備・運用に関する国の関与の在り方についても、実証終了までに速やかに決定することといたしました。

2つ目は「H-IIAロケットの位置付け」であります。我が国が必要なときに、独自に宇宙空間に必要な人工衛星を打ち上げる能力を維持するためのロケットを、基幹ロケットと定義いたしました。その上で、H-IIAロケットは、再点検の結果等を踏まえ、信頼性の確保を最重視した新方針の下に、確実な打ち上げを可能とする万全の対策を講じた上で、改めて我が国の基幹ロケットとして明確に位置付け、適正に運用することにいたしました。ここでは、再点検以下、万全の対策を講ずるまで、この視点が大変重要であろうかと思えます。

3つ目は「有人宇宙活動への取組み」であります。国際宇宙ステーション計画は、有人宇宙技術蓄積に不可欠なために着実に推進し、米国の新宇宙ビジョンの具体化による影響等、計画推進上の想定すべき事態に対しては、適切な対応をあらかじめ検討することとしました。また、当面、これは10年程度であります。この範囲では独自の有人宇宙計画は持たないけれども、20～30年見越した長期的な視点では、この範囲で着手を可能にすることを視野に入れた取組みを実施することといたしました。

なお、本資料の本文には、21ページ以降に関連する技術のロードマップとベンチマーキング。そして、有人宇宙計画に関するアンケート資料が添付されています。

以上、御審議を賜わりたいと思えます。

【茂木議員】

どうもありがとうございます。この宇宙の開発利用の基本戦略に関して、今、大山議員の御説明にもありましたように、幾つかの新しい視点を取り入れてございます。

本件につきましては、御意見等ございましたらお願いいたします。

河村文科大臣お願いします。

【河村議員】

我が国の宇宙開発利用全般につきまして、今後10年程度を見通した基本戦略をお決めいただいたこと、宇宙開発を主管いたしております文部科学省として、ありがたく感謝申し上げます。

今、御指摘をいただきました基本戦略に沿って、しっかりとした宇宙開発を進めていきたいと、このように思っております。

特に、H-IIAロケットを改めて我が国の基幹ロケットとして位置付けていただいたこと、これは非常に重いことであり、昨年的人工衛星やロケットに係る失敗の教訓をきちんと生かして、そしてH-IIAロケット打ち上げ再開に向けて万全の対策をしてまいりたいと思います。

現在、それに取り組んでいるわけですが、特に先の事項にございました直接の原因と推定された固体ロケットブースタのところは、宇宙航空研究開発機構において、ノズルの部分の設計変更を行うということになっておりまして、これから数回地上の実証実験を行いまして、具体的な設計を確定すると、こうなっておるところでございます。

大山議員も御指摘のように、宇宙開発は何といたっても信頼性の確保ということが必要でございますので、信頼性向上に向けた対策をより強化していかなければならぬと思っております。着実な成果を挙げて国民の期待に応えるべく最大の努力をするということであろうと思っております。

それから、有人宇宙飛行についても、これも長期的な視野でという御指摘をいただいたこと、重く受け止めさせていただきたいというふうに思います。

ありがとうございました。

【茂木議員】

黒川議員。

【黒川議員】

1つ、今の宇宙利用部会の話と、それから昨日、一昨日は宇宙ステーションのワークショップ、カナダ、ヨーロッパ、ロシア、それからアメリカ、NASAと来てやった。これは84年のレーガン大統領からやって、まだ20年経っても完成しない。ところが、アポロは10年でやってしまった。周りの状況が違っても、日本はどうするかというのが1つあると思います。

それから、日本の衛星については、環境衛星は素晴らしいのがたくさんあります。この間部会では言ったんですけども、上げる技術ですね。今、中国がやっていますけれども、もっとアジアの国をパートナーとして呼んだらどうかと。それから、データの分析もアジアの研究者をどんどん呼び込んで、データを一緒に共有することによって、アジアの拠点づくりというか、リーダーシップを是非発揮するという政策もすごく大事ではないかということをお話しました。是非そのような場面があると、非常に大きな成果が出ると思います。

【茂木議員】

薬師寺議員。

【薬師寺議員】

今の黒川議員の続きの話かもしれませんが、やはりロケット、衛星を含めて、大きなお金を使いますから、やはり国民への理解と、それから海外への貢献というところが重要かと思います。本文の中にも11ページから12ページにかけて、河村大臣も御一緒した地球環境サミットの中で、国際的な協力が重要であると、前回のレポートに比べますと強調しております。ですから、そのところを是非お読みいただきたいと思います。

それから、安全保障に関しましては、情報収集衛星ということがありますけれども、今、大山議員がおっしゃいましたように、打ち上げ能力をきちんと持つということが、やはり安全保障であるということが、この報告書の重要な点ですので、是非その辺は強調させていただきたいというふうに思います。

【茂木議員】

それでは、麻生総務大臣お願いします。

【麻生議員】

今、薬師寺先生が言われたところと一部重複するんだと思いますが、大山先生、これは確実に打ち上げ技術ができるということを望まない国も近くにはいるわけですから、その点は別の意味での安全保障も考えておいていただかないといけない。みんながやさしく見守って、よくやったなんてほめてくれる国が少ないと、そこだけはよく頭に入れてやっていただかないといけないところです。

【大山議員】

その点につきましては、左下段の「安全保障・危機管理の分野における取組み」という本文の中にも、配慮した記載がございます。

ありがとうございます。

【茂木議員】

今回の基本戦略の特徴は、1つ目に、宇宙開発利用が総合的な安全保障に貢献していくこと、2つ目は先ほどからありますように、万全の対策を講じた上でということですが、H-IIAロケットを改めて基幹ロケットとして位置づけること。3つ目は、長期的には独自の有人宇宙活動も視野に入れて取り組む

こと等について提言をしていることであります。

それでは、資料の1 - 2の「我が国における宇宙開発利用の基本戦略」を原案のとおり決定したいと思いますますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり。)

【茂木議員】

それでは、原案のとおり決定し、総合科学技術会議から小泉総理及び関係大臣に対し、意見具申いたします。

宇宙開発への挑戦を続けることは、国民に夢と希望を与える重要な取り組みであります。関係大臣におかれましては、この意見具申に沿って、政府と民間の適切な役割分担の下に、我が国の宇宙開発が効率的に進められるよう、御尽力をいただきたいと思ひます。

(2) 平成17年度科学技術関係予算改革の取組みについて

【茂木議員】

それでは、議題2の「科学技術関係予算の改革について」に入りたいと思ひます。

前回の総合科学技術会議では、科学技術連携施策群の創設並びに競争的資金の改革と重点的拡充を決定いただいたところであります。

その後、有識者議員を中心として、本年度からの新たな試みとして、概算要求前に関係府省からヒアリングを行う等、連携施策群のテーマ選定及び競争的資金の改革・拡充に向けた検討を進めてまいりました。

本日は3点、1つ目は科学技術関係の概算要求が出ておりますので、概算要求状況等の御報告、2つ目に連携施策群のテーマの決定、そして、競争的資金の改革と拡充に向けた議論、この3点を行いたいと思ひます。

まず、阿部議員から予算改革の取組状況について、総括的な説明をお願いいたします。

【阿部議員】

それでは、資料2 - 1ですが、スクリーンで御説明申し上げます。

平成17年度の概算要求の概要でありますけれども、科学技術関係は、速報値で4兆111億円ということで、前年度比11%増でございます。特に、科学技術振興費につきましては22%の増ということになっております。

これは、御案内のように、例えば20%増で概算要求基準に基づいて出されてきているものもありますので、ふくれている部分があるわけでございます。

この中で重点4分野、その他の4分野がどうなっているかということですが、すべての予算を分類することは、今のところできていませんが、大まかなところで申し上げますと、重点4分野につきましては、1兆570億円で19%増でございます。

その他の4分野、これは社会基盤であるとか、宇宙であるとか、エネルギーとか、そういうものでございますけれども、これは逆に7%減になっております。この理由は、原子力などエネルギーに関する減でございます。

さて、重点4分野につきましては、ここにありますように、軒並み大きいパーセントが増えておりますが、これは各国が国家戦略として、こういう分野を重点的に進めていくということの表れで、各省の意気を示していただいたものではないかというふうに思うわけでございます。

非常に厳しい国際競争の中で、我が国が持続的に発展をしていく場合に、科学技術の予算につきまして、大きい投資をしていかなければいけないということであるわけですが、今、いろいろ数字を御紹介しましたのは、各省がそれらの努力をされた一端であるわけでございます。

そうとは言え、先ほど申し上げましたように、ふくれている予算でございますので、それをきちんとスリムにしていかなければいけないわけですが、そのための基本が7月23日、この本会議で御決定をいただきました、改革に向けての取り組みでございまして、3つの柱からなっております。

まず、SABCの改善についてでございます。

ここにございますが、7月23日の本会議の後、連携施策群、競争的研究資金に関してヒアリングをさせていただきました。

その後、これからすべての科学技術関係予算をチェックいたしまして、優先順位づけSABC等の実施とりまとめを外部専門家の拡充等を図りながら進めていくということでございます。各省のこれまで以上の御協力を是非お願いしたいと思います。

この結果を10月の本会議で御報告を申し上げまして、その後、優先順位付け等の結果を反映しためり張りの効いた予算の実現ということで、財政当局への申入れ等、さらなる連携を図りながら政府の決定に向けて努力をしまいの

であります。

大臣からも御紹介がりましたが、連携施策群、それから競争的資金の改革・拡充が3本柱の中に入っているわけではありますが、これらもすべて、SABC等の改善の対象であるとともに、科学技術予算の改革推進のための3本の柱になっております。これらをすべて連携を図りながら、質の一層の向上を図ってまいるといってございますので、これについて、本日、改めて御確認をいただければと思います。

以上であります。

【茂木議員】

ありがとうございました。それでは、引き続きまして、2つ目の連携施策群の創設・推進につきまして、大山議員の方から御説明をお願いいたします。

【大山議員】

それでは、科学技術連携施策群の創設・推進につきまして、お手元の資料2-2と2-3で説明を申し上げます。まず、資料2-2の1項をごらんになっていただきたいと思います。

7月23日の本会議で決定されました、科学技術連携施策群、この創設・推進の方針に基づきまして、連携施策群のテーマをここに記載のとおり選定いたしました。ポストゲノム、新興・再興感染症、以下地域科学技術クラスターに至る8テーマであります。

研究領域が広い3テーマ、例えばポストゲノム、ユビキタスネットワーク、次世代ロボット等につきましては、領域を絞り込んで出口を明確にしました。

お手元の資料2-3の1ページに移っていただきたいと思います。この資料を用いまして、テーマの選定と内容について説明をさせていただきます。

今回は、有識者議員が選んだテーマ候補例と、各府省から提案のありましたテーマにつきまして、関係府省ヒアリングを実施し、併せて外部の専門家、ここには科学技術分野の専門家及び産業界の有識者等が含まれておりますが、意見を伺いまして選定を行いました。

具体的には、中ほどに記載してございます、13候補テーマにつきまして、上段の「国家的・社会的重要性」「不必要な重複排除の必要性」「省庁の連携強化の必要性」、こういった点を総合的に勘案いたしまして、先ほど御案内のとおり右の8テーマに選定いたしました。

以下、代表3テーマについて簡単に内容を御紹介申し上げます。

1つは「ポストゲノム - 健康科学の推進 - 」であります。本件で想定される関係府省は、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省であります。

本分野の研究領域は、大変広範にわたりますために、ここでは領域を健康科学という形でくくりまして、出口を「テイラーメイド医療」「ゲノム創薬」「予防医学」、こういった点に明確化いたしました。

この分野では、中ほどに記載のとおり、基盤、基礎、応用といった各研究ステージにおいて、ここに例示したさまざまな研究開発プログラムが多くの省で現在進められております。したがって、資金を有効に活用して、結果を早期に実現するためには、縦の連携、つまり、この図表ではグリーンの縦の矢印が書いてございますが、基盤、基礎研究から応用研究へ向かう府省間の連携強化、これとともに、横の連携、つまり、横軸に黄色に矢印が書いてございますが、同じフェーズ研究間の重複排除といったものが不可欠であります。本施策については、今後こうした取り組みを強化して、上段に書いてありますような、さまざまな恩恵の早期実現を目指したいと思っております。

2つ目は「ユビキタスネットワーク - 電子タグ技術等の展開 - 」であります。

本件で想定される関係府省は、総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省であります。本施策群はe - J a p a n戦略IIが目指す「元気・安心・感動・便利」な社会の実現に向けたユビキタスネットワーク社会基盤の構築に関連いたしまして、産業構造の改革、国際標準化等を通じた新たな産業や市場の創出につながる大変重要な研究開発プログラムがこの中で構成されています。この分野では、現在、上段に書いてますように、ネットワーク化技術の研究開発から、実証研究に至るまで、ここに例示したようなさまざまな研究開発プログラムが多くの省で展開されています。

また、産業界におきましては、中段に書いてますように、医薬品、国際物流、産業機械、百貨店、アパレル、出版、こういった業界において多岐にわたる実証実験が並行して行われています。一方下段に書いてますように、電子タグ製造、組み込みソフト等の要素技術の研究開発が、今申し上げたプログラムと並行して進められています。本件につきましても、省間の重複を排除し、資金の有効活用と成果の早期実現を目指したいと思っております。

3つ目は「水素利用 / 燃料電池」であります。この分野で想定される関連府省は、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省であります。右に書いてますように、地球環境問題への対応、エネルギー安全保障に資する水素エネルギー社会の実現。これは、我が国は勿論であります、国際社会の大きな関心事でありまして、開発競争が激化の一致をたどりつつあります。我が国におけるこの分野の研究開発は、この左の欄に書いてますように、定置用・携帯用燃料電池、自動車用燃料電池、それから水素利用、この3つの視点に軸足を置いて、それぞれ基礎研究から環境整備にいたるさまざまな研究開発プログラムが進行しています。経済産業省の燃料電池普及に向けたマイルストーンでは、右

の下段に小さく書いてますように、2010年では自動車5万台、定置式220万KW、更に20年では自動車500万台、定置式1,000万KW こういった姿が想定されています。本テーマにつきましても、省間の重複を排除して一体的に研究開発を推進して、水素エネルギー社会実現に必要な技術の早期確立を目指したいと思います。

資料2-2の2項に戻っていただきたいと思います。本日は時間の都合で3テーマのみ御案内申し上げましたが、新興・再興感染症、バイオマス利活用、こういったテーマにつきましても、当然国内における成果の社会還元、これが重要であります、更に国際貢献の視点が大変重要であろうと思います。

本日こういった連携施策をお決めいただきますと、それぞれの施策に含まれる施策につきましても、科学技術政策担当大臣及び有識者議員が平成17年度の優先順位付けの過程において、外部専門家の助言を受けながら重複の排除、連携強化等に係る点検を行った後で決定をいたします。

併せて政策担当大臣及び有識者議員は、連携施策ごとに重要度に関する所見を付して、次回の本会議において報告を致します。

また、科学技術政策担当大臣及び有識者議員は、その後の予算編成過程においても、必要な重複の排除、連携の強化等の観点から適正な点検を行い、必要に応じて各連携施策に含める施策の加除及び修正を決定して本会議に報告いたします。

【茂木議員】

ありがとうございます。阿部議員からまず概算要求の状況、それから今年の整備の話に関しまして、概算要求の段階で4兆111億円、前年度比で11%の増。分野別に見ますと、重点4分野について19%の伸び。逆にその他4分野については7%の減、今年は全部の予算につきましても、しっかりチェックをしていくという報告がございました。それから、大山議員の方からは、8つの連携施策の創設・推進についての御報告がありました。

この2点につきましても、皆さんの方から御自由に御発言をいただきたいと思います。その御議論の後で、競争的資金に関する報告と議論を進めさせていただきたいと思います。

【河村議員】

今、御説明をいただきました、ユビキタスネットワークもそうですし、次世代ロボットもバイオマスも、国家的に、社会的に非常に重要な科学技術プロジェクトでありまして、御指摘のように各省庁にまたがっているものも多いわけですから、関係府省緊密な連携の下で、政府が総合力を発揮しながら取

り組むということが大事だろうと思います。

そういう意味で、総合科学技術会議にイニシャティブを取っていただく、これはとても有意義なことだと思っております。

今、挙げていただきましたテーマでありますけれども、これがまさに御指摘があったように、科学技術連携施策群にふさわしいものだと思いますし、今後施策群に含む適切な施策を選定して、そしてそれをコーディネートする。この体制の整備が進むことを期待いたしております。

また、科学技術振興調整費の活用という問題がございますが、これも単に施策群の中で欠落した部分だけを取り出すというのではなくて、各府省間の効果的な連携が可能で、それから将来ともに発展可能性の高い課題を是非選定してもらいたいと考えております。

【茂木議員】

経済産業副大臣、お願いします。

【坂本経済産業副大臣】

今日は代理でまいりました。副大臣の坂本です。連携施策群で選定されたテーマにつきましては、先般我が省で策定しました、新産業創造戦略が活かされておまして、大歓迎でございます。

具体的には、この技術戦略マップに基づく施策展開において、ただいま大山先生からお話がありましたように、各省庁と連携を図って、ロボットや燃料電池、あるいはユビキタス等々について、具体的な成果を上げていきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。

【茂木議員】

それでは、財務大臣、お願いします。

【谷垣議員】

前回の会議でも申し上げたことでございますけれども、今まで量的な拡充と申しますか、そういうのはかなり意図してやってきたわけですが、聖域というわけにはなかなかまいりませんで、今の財政事情を考えますと、どうしても効率化とか、質的向上というふうにこれから重点を置いていかざるを得ないんだろうというふうに思います。

来年度予算については、そういうふうな角度から臨んでまいりたいと思っておりますが、S A B Cをやっていただいておりますのは、引き続き私たちもこれを頭に置いてやりたいと思っておりますが、相当件数についてはめり張りを

付けてS A B Cでやっていただいていると思いますが、私どもは金額面で試算しますと、SとAで9割近くの金額になるのではないかと思います。

したがいまして、SとAをもう少し絞っていただいて、B、Cとのバランスを取っていただくことができないかと。そういう形で、私どももめり張り付けをやっていきたいと思っております。

それから、連携施策群ですが、これは私どもも大変期待をいたしております、 unnecessaryな重複排除であるとか、連携の強化、これは是非お願いしたいと思っております。私どもも十分それを参考にして、予算策定に当たらせていただきたいと思っております。

【茂木議員】

それでは、吉野議員、よろしく願いいたします。

【吉野議員】

今回の連携施策群というのは、非常にいい着眼点だと思ひまして、企業でR & Dをやってきた経験から、一言コメントさせていただきますと。

まず、連携についてであります、私どもはR & Dの中のD、デベロップメントというのは、営業とか生産も参加するビジネスプランの実行というふうに定義づけていまして、エンジンとか車を設計し、販売まで至るチームとか組織にある技術統合行為というのをDと私どもは言っています。

それから、リサーチのRというのは、未知のものや技術を新しく生み出す、個人またはチームによる技術開拓行為と位置付けておひまして、私どもの場合ですとヘッドカウントベースで、Dが4分の3、Rが4分の1というような状況であります。

当然、Rというのは着眼とか発想が勝負でして、原理が成立することの証明をやります。Dは、当然コストバリューとか、品質とか、信頼性とか、そういうことを詰めていくわけですが、往々にしてこのRをやっている連中と、Dをやっている連中というのは、仲が悪いんです。

Rでいけるといひのは、Dへ持っていくと、それは余りにもピンポイントでものにならないことが多いんです。これは、打開策は、Rのある段階でDの部隊も投入するとか、コミュニケーションを取らせるということなんです、これは政府の場合で考えますと、イメージとしては、Rは文科省が多く、Dは経産省が多いということなので、本当はRの途中でDも入っていくとか、情報をお互いに交換するとか、そういうダイナミックなマネジメントができれば、成果が生みやすいことなので、それが理想だと私は思っています。

もう一つ、重複について申し上げます。発想とか着眼が勝負のR分野という

のは、例えば、今、燃料電池がここにもテーマとして上がっていますが、水素とか酸素が反応するところの膜の材料であるとか。新しい触媒の探索というのは、複数の違ったアプローチが思わぬ成果を生むことがあるわけで、したがって、紋切り形の排除ではなくて、異質のものが競争していく中で生まれてくることも、我々、途中のマネージメントとして配慮すべきだと思っております。企業の経験から言いますと、そういうことが申し上げられるのではないかと思います。

【茂木議員】

ありがとうございます。麻生大臣。

【麻生議員】

これは是非いいことだと思いますので、今、吉野先生言われたようにやられるのはいいことだと思います。

オリンピックはつい2週間前まで湧いていましたけれども、日本はメダル37個、そのうち30個は4つの種目しかないんですから。4つの種目で共通していますのは、柔道、器械体操、レスリング、それと水泳、いずれもナショナル・トレーニング・センターで訓練された種目だけです。ここが一番肝心なところなんです。それが、新聞社というのは全然スポーツがわからない者ばかりが言っているからだめなんですけれども、是非そういう意味で金をうまくかけたら、その種目だけが取ると。スポーツでもはっきりしておりますので、是非よろしくお願い申し上げます。

【茂木議員】

先ほど谷垣大臣から、S A B C付けにつきまして、今月、来月で行いますが、件数だけではなく金額でもバランスをとということで、そういったことも踏まえて今年の作業を進めたいと思います。

それから、R & Dの連携の話に関しては、そういった視点で、まさに今回連携施策群をつくっており、ご指摘を重視しながらやってまいりたいと思います。

時間の関係もございますので、もしよろしければ資料2 - 2、お手元で言いますと、縦長の2枚紙になりますが、「科学技術連携施策群の創設・推進について」を、原案のとおり決定したいと思いますので、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

【茂木議員】

それでは、原案のとおり決定をいたします。今年、新たな取り組みとして、すべての科学技術予算をチェックして、S A B Cの優先順位付けを行うことといたしております。本日、御決定をいただいた8つのテーマにつきましては、その優先順位付けの過程におきまして、重複、排除、連携強化の観点から詳しく点検し、各府省の縦割を廃止しためり張りのある予算の下で、積極的に推進をしていきたいと考えております。

それでは、引き続きまして、改革の3つ目の柱であります。競争的資金の改革と拡充につきまして、岸本議員から御説明をお願いいたします。

【岸本議員】

創造的な科学技術を推進する、あるいは、それを通じて優秀な人材を育成するという点において、競争的な環境を醸成する。あるいは、それを支援するための競争的研究資金を増やすということは、最も重要な要素であると考えられます。先ほどオリンピックの話もありましたが、ある程度競争的に国の支援を分配したことが、メダルの増加につながったのではないとも言われております。

そのような理解の下に、第2期科学技術基本計画では、競争的研究資金を倍増するということを目玉の1つとしてうたっております。

しかしながら、私が5月の本会議で申し上げましたように、平成12年度から比較して競争的研究資金は20%しか増えていない。そこで、平成17年度の科学技術予算においては、この競争的研究資金の増加のベクトルを格段に上向きにしなければならないということを、この本会議では決定していただきました。

その原則の上に立って、各省庁から概算要求を提出していただいたものをまとめたものが、資料2 - 4の表であります。

これを見ていただきますと、この概算要求の時点では、6,091億円と倍増になっております。これは、最終的な予算の策定の段階では、大幅に削減される可能性もあるわけですが、この時点では全体の科学技術予算のうちの、競争的研究資金の占める割合は、16.2%ということになります。これは、アメリカの32%、イギリスの20%に比較しますと、まだまだ少ないのですが、相当近づいてきたと思います。これがもし達成されれば、近づいてきたと言えるのではないかと思います。

そこで、最終的な予算の段階で、なるべく競争的研究環境が醸成され、それが増えるところへ持っていくために御協力をお願いしたいと思います。我々としても、検討していきたいこととして、第1は、今回新規に、あるいは、今までそうでなかったものを組み換えて競争的研究資金として要求していただきま

したものが、果たして、それが本当に競争的研究資金としての政策目的に合致するものであるかどうかは、徹底的に検討していきたいと思っております。

もう一つ、非常に大事なことは、例えば、競争的研究資金の根幹を成す、我が国の非常に基礎的な研究を推進するために重要な、例えば、文科省の科学研究費補助金であるとか、厚労省の科学研究費補助金は、全部今回の要求では120%増で提出してもらっております。ところが、12月の段階になると、それがぱっと大幅に削減されて、また元のもくあみにならないようにしなければならぬ。そのためには、我々としてやるべきことは、SABC付けを徹底して行うと。先ほど、財務大臣が言われたように、SとAばかり付けて、同じことではないかということのないように、SとAとBとCとのバランスを考えて、大幅にこの競争的研究資金が削減されないように、あるいは、運営費交付金の面にまですべてをチェックして、我々としては検討していきたいと思っております。

したがって、その結果に関して、財務省はそれを重要視して、それを勘案して、最終的な予算の作成に協力いただきたいし、各省庁も最終的な予算の作成の段階において、競争的研究資金が大幅に増加するように御検討、御協力をお願いしたいというのが、私の報告であります。

【茂木議員】

ありがとうございます。本件に関しては、関係府省から、資料2-5として御提出をいただいております。各大臣から、もし御説明等ございましたら、お願いいたします。

河村大臣、どうぞ。

【河村議員】

競争的資金の拡充をということでございましたから、競争的資金を抜本的に拡充する方向で提案をさせていただいておりますが、具体的に言いますと、科学研究費補助金を始めとする主要な競争的資金につき、引き続き制度改革をやって大幅な増額要求をしております。

それから、21世紀COEプログラムであります。これは公募を行って、また外部専門家による審査を経て、競争的に配分される資金でありますから、競争的な研究環境の形成に資するものと考えておりまして、本来競争的資金として位置付けられるべきものだと考えておりますので、競争的資金として計上させていただいたところではあります。

更に加えて、既存の事業の見直し・廃止・縮小をやった上で、新規の競争的資金を要求して、競争的資金全体として大幅な拡充を行うということで、今お願いをしているところでございます。

【茂木議員】

薬師寺議員、お願いいたします。

【薬師寺議員】

競争的資金は、いろんな種類があるのは、御承知のとおりだと思うんですけども、やはり経済財政諮問会議の政策群の中に入っていますように、制度改革とか、そういうものが前提にならなければいけない。

それから、学問も研究領域もダイナミックに変わってきますから、余りこの方向だと決めてしまうと、時代の流れに遅れてしまうので、是非そういうものを含めて、長期的には制度改革、構造改革をきちんと競争的資金の中でもやっていただきたいと思います。

【茂木議員】

亀井農水大臣、お願いします。

【亀井議員】

私ども農水省は、競争的研究資金につきましては、本年度は公募開始を早めるなどして、すべての制度におきまして、昨年度より課題の決定、また交付時期の早期化、あるいは年度間繰越などの改善を図っております。

また、17年度の概算要求では、食の安全・安心、これに関する研究のための重点枠を設定するなど、既存制度の拡充や、あるいは食料産業等につきまして、新技術を短時間で実用化するための制度の創設という点、重点的に拡充を図っておるところでありまして、今後予算案決定につきまして、政府全体としての目標の達成ができるように頑張りたいと思っております。

【茂木議員】

経済産業副大臣、お願いします。

【坂本経済産業副大臣】

経済産業省は、412億円の要求を出しております。資金拡充の目的は、競争原理が働きにくい大学と、質の向上を図るために競争を促進させることにあると理解をいたしております。

経済産業省の研究開発は、民間企業を対象とする実用化開発を中心とするものでありますけれども、近年産学連携の必要性が高まっておりますので、大学発事業創出実用化研究開発等の事業を新たに追加いたしました。

競争的研究への大学の参画が促進されることを期待いたしております。

【茂木議員】

それでは、松本議員、お願いいたします。

【松本議員】

競争的資金は、5年目にして倍増の目標が達成されそうになっておりますけれども、なかなか競争的資金という内容について、十分な認識がまだ行われていない面が若干あると感じております。

確かに、薬師寺議員がおっしゃいましたように、組織改革等についても、これは競争的な原理が働くべきであるということを十分に認識して、それとともに、今後より一層優れたプロジェクトの計画、あるいは個人のアイデアというものに対する競争的資金というものと、両方これは競争的原理で拡充していただきたいと思えます。

もう一つは、私は大学の教員をしておりますので感じることでございますけれども、文科省の科研費等で、選択と集中、あるいは重点4分野とプラス4分野ということが、大きく言われておりますけれども、これが過去数年言われたために、確かに、そういう分野に非常に集中的に研究費の配分が行われて、研究者も増えている一方、全体として見ますと、重点分野に非常に突出しており、それを支える裾野の部分が十分でないと感じます。非常に幅が狭くなって、ピークが立っていると言いますか、横から風が吹くと、もしかすると揺らいでしまうかもしれない。それよりも何よりも、一番大事なのは10年後、20年後に、余り今のような構造ですと、裾野のところから立ってくるのが予想されるようなものが立ちにくくなる。これはやはり将来の基礎研究及び基礎を10年かかって大きく育てるという視点が、少し十分でないと感じておりますので、各省庁におかれまして、競争的資金を公募等されるときに、一般の研究者に十分精神がわかるように裾野も重要であると伝えていただきたいと思えます。あなたは、もしかして、自分はこの分野には関係ないと思っているかもしれませんが、そういう分野でさえも将来重要になる技術が、あなたの技術で新しく生み出せるのではないかと。そういう考え方を世間に広めていただきたいと思えますし、研究費の採択の際に広い裾野を確保するということを是非心がけていただきたいと思えます。

【茂木議員】

ありがとうございます。官房長官、お願いします。

【細田議員】

今、松本議員がおっしゃったことは、大変大事だと思います。せっかく概算

要求では倍増ですから、岸本議員がおっしゃったように、何か綿菓子のように大きく見えたが、食べてみたら何もなくなってしまったというのでは困るので、せめてマシュマロ程度にして、ちゃんと実現するように、是非財務大臣にもお願いいたしたいと思います。

【茂木議員】

財務大臣。

【谷垣議員】

7月の御議論を受けて、この要求段階では大幅に、茂木大臣も喜ぶような大幅な姿になっておりますが、仕上りの姿は、一つひとつ精査して吟味させていただかなければいけないと思っておりますが、その際の視点は今も御議論がありましたように、やはり制度改革への取り組みというのをやっていただいていると思えます。

それから、いろいろ分野も移ってまいりますので、スクラップ・アンド・ビルドというか、そういうことに取り組んでいただいていると思えます。そういうようなところを見ながら精査をするということによってやっていくのかなと思っております。

【茂木議員】

ありがとうございます。

綿菓子とマシュマロがどのように違うのかよくわかりませんが、前回は7月23日で、この1か月半で相当関係府省に御尽力をいただいて、競争的資金についての改革と拡充をいただきましたことを、感謝申し上げたいと思っております。

ただ、第2期基本計画の目標達成に向けては、今後とも幾かの点で一層の取り組みが必要だと考えております。何点か申し上げますと、まず競争的資金、これは新たに、例えば、21世紀COEとか、組み入れに関して、単なる看板の架け替えでは意味がありませんので、各府省から新規に登録のあった予算が、本当に競争的研究資金に該当するかどうかにつきまして、改めて相談させていただきたいと思っております。

それから、S A B Cの優先順位付けにつきましては、それが予算査定にしっかり反映されることが大変重要だと考えておりまして、S評価のものについては、思い切って重点的に配分をして、C評価のものについては、大胆に削減するというので、競争的資金の確保にも、それが貢献できると考えておりますので、この点につきまして、財政当局におきまして十分な御配慮がいただければ

ばと思っております。

総額については、6,000 億を超えたということではありますが、今後各府省の予算は総額が決まっております、最終的には予算査定に向けては厳しい攻防があると考えております。そこで、最後に第3点目でありますけれども、最終的な予算査定に向けて、十分に資金が手当されるためには、今回各府省からは登録のなかった予算、例えば、独立行政法人や国立大学の運営費交付金についても、競争的研究資金への活用が可能かどうかの検討も、場合によっては必要になってくると考えております。

これも念頭に置いて、各大臣におかれましては、引き続き指導力を発揮していただければありがたいと思います。今後のプロセスにおきまして、更に詳細な調整もさせていただきたいと考えておりますが、以上、特に3点につきまして、よろしく願いできればと思っております。

それでは、プレスが入って、その後、総理にごあいさつをいただきたいと思っております。

(報道関係者入室)

【茂木議員】

それでは、最後に小泉総理から御発言をお願いいたします。

【小泉議長(内閣総理大臣)】

ありがとうございます。今年は総額4兆円、すべてチェックすることにしたわけですから、SABC、これは極めて大事なものですけれども、重複の排除、重点化を図っていただきたいと思います。

今回、改革の新たな取り組みとして、連携施策群の推進、これはしっかりと行っていただきたいと思います。

更に、岸本先生が言われたように、競争的研究資金について、約6000億円を積み上げていただきましたけれども、綿菓子、マシュマロはともかく、重複排除、連携強化によりまして、予算案の仕上りベースにおいても競争的研究資金の十分な確保が図られるように、各省の御協力をお願いいたします。

宇宙開発利用の基本戦略ですが、宇宙開発利用に係る基本的考え方に関する報告書が、多くの関係者の御努力により、とりまとめられたことに感謝申し上げます。

フロンティアとしての宇宙の開発利用への挑戦、国際社会における我が国の地位を高めることにも大きく貢献すると思っております。関係大臣に、今後とも引き

続き必要な努力をお願いしたいと思います。

(報道関係者退室)

【茂木議員】

ありがとうございました。なお、既に御確認いただいております、前回の議事録につきまして、本会議終了後公表させていただきます。また、今日の配布資料につきましても、すべて公表することいたします。

以上をもちまして、本日の「総合科学技術会議」を終了いたします。ありがとうございました。